

憲法ルポ 「敵基地攻撃能力」配備計画

沖縄・うるま

「今、憲法の榮とくら高葉が出せないほど通じ込まれ、戦記ではないかとの切実感がある」。沖縄原住民市在住の50代女性はこう訴えます。同様名護市の辺野古にて前でも60代の女性が「また沖縄が戦争に巻き込まれる」と懸念を込め語りました。今、県内各地で戦争への危機感が高まっています。

(田中智江)



「基地は抑止力にならない」

近隣には学校

政府は、県中部に位置する糸満市に、米軍基地を配備する計画です。同時に誘導弾の配備も予定しており、沖縄本島では初めてとなる「敵基地攻撃能力」の

能力向上も予定しておられます。住民が戦争に巻き込まれると、その危機感を持った市民有志が昨年11月28日、「(サイル配備から命を守るために市民の会」を創設しました。

共同代表の照屋寅之・沖縄国際大学名誉教授は、地対艦誘導弾配備など「抑止力」を高めようとすれば、既備と準備がエスカレートしていく一方だとして「軍備強化しながら平和を実現していく」と述べます。

勝連分屯地とは、原子力潜水艦の入港可能な米軍基地ホワイトビーチが隣接。分屯地からわずか160㍍先には小勝連高校・中学校などが

あり、周囲は住民地域と密接した地域でもあります。既備は、戦争が起きた場合、住民が巻き込まれると分かりながらの配備は人道上からも許されないと憲法もあります。

「近いには駐屯や普天間基地もある。『台湾有事』になれば、この県中部一帯が戦場となる危険性は高い。基地があることは決して『抑止力』にはならない。平和を作り出すには外交しかない」

市民の会は、昨年末に開いた市町村の「サイル配備が報道されて以降、ミサイル配備の懐疑がわかる問題や安保関連の文書の問題についての講演会などを開催してきました。共同代表の伊藤サチ江(日本共産党)は、「沖縄は『たるまち』でこの問題への認識は広がっている実感はある。ただ、専門家を開催できたのは63ある自治体の中でも9カ所だけ。まだ敵基地攻撃能力はあるが、住民にも輪を広げられるよう一歩ずつやさしくしていかない」と語ります。

(山口和也)

市民有志が「会」「命守れ」の輪 一步ずつ

上空から見た勝連分屯地(2011年9月10日)(©沖縄ネットワーク・プロジェクト)

軍拡反対の声 着実に

沖縄全県組織 早期結成へ

憲法ルポ

沖縄の現実。その一方、

昨年末、那覇市内で新た

に個人や団体参加による

全県組織の早期結成が提

起されました。「アーモ

ア沖縄戦命どう宝の会」

の山城博治共同代表が呼

びかけると、参加者らは

「いま立ち上がる時だ」

と意を示しました。県

内各地で、「憲法9条守

い立派な県民」とい

う言葉が響き渡りました。

内各地で、「憲法9条守

い立派な県民」とい

う言葉が響き渡りました。

軍拡反対の声 着実に

1面のつづき

うるま市内では勝連分屯地で進むミサイル配備について、市民の多くがまだ十分に理解できません。これが現状だといいます。県・自治体からの説明もないまま、水面下で進む軍拡。伊盛氏は「建設が始まったが、市民の目に見えない何かをやっているかもわからぬ」と訴えます。

厳しい状況に直面する

「抑止」といかか戦争をかえって呼びこみかねない政府の欺瞞(きまん)に、沖縄は翻弄(ほんろう)されています。「抑止力」というたう軍備拡大がいすれ破綻することを

民謡の一節にのせて歌います。「黄金の花はいつか散る」。手拍子をたたく市民たちの手には、平和を求めてたたかい続



辺野古ゲート前で2022年12月22日、三線の音に合わせて手をたたくおなあ。この口、ゲート前でのたかじは300の一口を迎えました

敵基地攻撃能力保有で「抑止」といかか戦争をかえって呼びこみかねない政府の欺瞞(きまん)に、沖縄は翻弄(ほんろう)されています。「抑止力」というたう軍備拡大がいすれ破綻することを民謡の一節にのせて歌います。「黄金の花はいつか散る」。手拍子をたたく市民たちの手には、平和を求めてたたかい続

いてきた日々が刻まれています。